



# 横浜陶芸友の会だより

第171号

平成30年

7月23日発行

## 総務部より

### 「総会の報告」

5月26日(土) 15時より、杉田地区センターにて、8名の会員が集まり、各議案についての報告と審議を行いました。

### ◎会長挨拶

### ◎議事

- 平成29年度事業報告
- 平成29年度会計決算報告・会計監査報告
- 平成30年度事業計画
- 平成30年度会計予算

### ◎役員の出選と改選

### ◎その他

- 第40回作品展(2019年)の計画
- ・招待者の作品をテーブル展示する
- ・陶芸教室に、展示の参加を呼び掛ける
- 次回役員会の予定
- (例年ある8月の役員会はありません)
- 10月13日(土) 杉田地区センター(予定)

## 平成29年度事業報告

- 事業部 作品展の報告
- 専修部 春秋焼成会の報告
- 広報部 友の会たより 年3回発行
- 会計部 平成29年度決算・監査報告
- 総務部 「友の会たより」の発送

## 平成30年度活動予定

- 事業部 「第40回作品展」の会場(決定) 1月8日(火)〜13日(日)「かなつくホール」
- ☆特設コーナー課題「飯茶碗」
- 専修部 秋期焼成会 「飛びカンナ」
- 広報部 年3回「友の会たより」発行
- 会計部 平成30年度予算額
- 総務部 「友の会たより」の発送・名簿作成

## 秋の焼成会(研修会)のお知らせ

### 専修部

既に予告してきましたが、今年の焼成会の研修テーマに「飛びカンナ」を取り上げてみました。

この技法による器物はよく目にしますが、



意外と自分で作る機会が少ないのではないのでしょうか。

生乾きの鉢や皿などに白化粧を施し、弾力のある板状のスチールカンナを当てて作る帯状の模様の特徴があり、大分県の小鹿田焼や福岡県の小石原焼などの伝統技法の一つとなっています。

いずれも日常生活雑器としてとても味わい深いものがあります。ぜひ、この機会に多くの方のご参加をお待ちしています。

なお、今年度は「飛びカンナ」の研修のみとし、「焼成会はお休み」にいたします。

これは会員のほとんどが、個人窯や別の陶芸教室などの窯で焼成していることから利用希望が年々少なくなってきたためです。(作った飛びカンナ作品の焼成希望があれば別途有償にてその用意があります。)

## 【飛びカンナ 実施内容】

【日時】2018年9月16日(日)

午前10時から午後3時まで

【場所】横浜市技能文化会館 6階作業室  
【各自用意するもの】・生乾きの器物2〜3点  
(素地は褐色系の陶土)

【参加費】 無料

【その他】 専修部で用意するもの

(白化粧、刷毛、飛びカンナ、ろくろ等)

平成 29 年度決算書・30 年度予算書

ご教示ください

先日、会員の方から電気窯のメンテナンスの件で問い合わせがありました。詳しくそうな方にお聞きしたところ、次のような回答が寄せられました。皆様のご参考になればと思います。

質問内容

私の使ってるシンポ工業の電気窯(プロ135)について教えて頂きたく、メールいたしました。

購入はもうすぐ30年ちかくなり、焼成(素焼き・本焼き含む)回数は130回です。カンタル線(?)の伸びは、まだ目立ちませんが、いくつかの亀裂が出来ていて、そのせいかどうかわかりませんが、焼成時間が1、2時間は長くなっています。それでセラミック糊をシンポ工業から購入しようと思っています。製品には使用方法等説明書きはあると思いますが素人でもできるのでしょうか? 亀裂の奥の奥まで入るのだろうか、と少し不安です。これに関して色々お話し聞かせて頂けますでしょうか? よろしくお願ひします。

会員の方からの回答

炉壁のひび割れ修理でしたら私は柔らかくした道具土で隙間を埋めています。「イソタツプ」でも簡単に直せると思います。が、道具土ならお金が掛からないので。ただし天井部のひび割れ補修の場合だと、どちらも剥離し易い欠点があるので専門業者に聞いた方が良いでしょう。また補修材は奥まで注入すると亀裂が広がってしまうので表面だけにした方が良いでしょう。表面の修理だけで充分です。セラミック糊は使ったことが無いので良し悪しは判りません。

その後 質問者が業者に聞きました

色々ご意見伺えたのですが、その後4月中旬に新宿区にある極楽窯シヨールームに行きました。目的はセラミック糊を使って亀裂部分を補修しようと考えていましたので、その購入とその他いろいろお聞きしたいと桃原代表にお会いした次第です。最近、焼成時間が長くなった(データの的に)ように感じていますので、やはり窯の亀裂の影響かなと素人考えで、今回問い合わせとなったわけです。

桃原さんからはセラミック糊は指でつけて、亀裂の奥まで入れることは必要ではなく(と

いうより入っていかないとか)、表面をふさいでくださいと言われています。

またその際、道具土での亀裂補修についてお聞きしましたら、道具土は効果が薄いとのお話でした。

今月中に暇を見て窯のセラミック糊補修をやろうと思っています。

最後に極楽窯の内部取り換えは購入価格の6割で請けると桃原さんがおっしゃっていた様に記憶しています。

確かその時、頭の中で40万×6割=24万亀裂埋めて最後まで全うしよう決めました。



第40回「作品展」のお知らせ

事業部

今年度の活動予定でもお知らせしてありますが、会場と日程が決まりました。

【日時】平成31年1月8日(火)から1月13日(日)まで(6日間)

【場所】かなつくホール A室 (JRR東神奈川駅 下車3分)

【特設コーナー課題】「飯茶碗」 ※詳細については、「11月号会報」に同封いたします。

☆年明け早々になりますが、皆様の素晴らしい作品を楽しみにしております。

『第 39 回 作品展』紹介②

「ぐい呑み」 松崎 紀一

お酒が好きだった私は 自分の「ぐい呑み」を作りたくて陶芸を始めたのですが、思うように作れず、仕方なく人形を作るようになりました。



松崎紀一さん



最近ようやく自分の「ぐい呑み」が作りたくなり出来上がったものを愛用しています。自分にとっては最高(?)の作品です。もち論、お酒はおいしいです。

【陶人形】(三対) 名称「三姉妹」



土は「赤津土」。釉薬は益子の並白をベースに、織部、黒天目、白マットなど。焼成は電気窯で 1230℃

(作者の思い) 年々、表情が難しいと思うようになりました。生地が生の時と焼きあがってからでは表情が微妙に変化するので、その点を今後課題にしたいと思います。

娘達は恋をしているのでしょうか。心のときめきを抑えきれず、ふつと外に出て、月に願いをかけている。そんなイメージで作りました。

シリーズ「念ずれば花ひらく」 「地蔵と6人の弟子」



土は「越前土」 (焼成方法) 電気窯でサヤに炭を入れ素焼きをして、本焼きはもう一度炭化焼成。1230℃。

(作者の思い) ひたすら願いを込めて念ずる、一心に念ずること、フアツと花が開く。そんな瞬間があるような気がします。

地蔵菩薩を中心に、何とか悟りを開きたいと弟子入りした小さな仏が並んでいます。

【狛犬】

土は「信楽土」 焼成方法「穴窯」

(作者の思い) 今年は成年なので、並べてみました。小さいけれどしっかり悪魔から守ってくれる いいやつです。

「金志野」 山村 隆

今年の一品は「金志野」です。

志野と言うものの全てが志野と同じと言う訳ではありませんし、金色を出すために金も一切使っていません。

金色の発色を得るには、金色ラスタールなどの酸化で簡単に焼ける釉薬も市販されています。しかし、買った釉薬で作るのでは誰にも出来てしまいオリジナリティを出せないのも面白くありません。

そこで、釉を自分で調合し、焼き方も特殊な焼き方を工夫しました。ただ、焼成時間が志野と同じように長く徹夜になるため不眠不休の体力と、ガス漏れによるガス爆発への細心の注意が必要でこれが一番の難関でした。

今回は第一回目のテストのため成功率は一割しかありませんでしたが、これで改善点が判ったので二回目以降もっと美しく、色々な色味の金色を出したいと考えています。



山村隆さんと金志野の作品



黒土で還元で焼成し、赤シリーズで統一しました。一つのランプの赤が出なく黒っぽくなりました。

窪田 由紀子



窪田 由紀子さん  
＜展示作品＞  
コーヒードリップ  
コーヒークップ  
ランプ・飾り皿  
ミルク入れ・花器  
コンポート



毎年作品を作る時に、他の人達が作らないだろう。と、思うような物を自分も楽しんで、又、見に来た人が「何だ、これ」と、思う物を作って、見て楽しんでもらえればいいと思っています。

この「時の鐘」は、全てタタラで作っています。いかに平らに曲がらず乾燥させるのが難しい。私は発砲スチロールの箱の中に積み重ね



「川越・時の鐘」 吉川 勝

て入れておき、時間が経ってから壁から貼り合わせていき、削り込んでいきます。着け方が悪いと剥がれるので、支え棒など使って乾燥させています。

ワイングラスは、ただのグラスでは面白くないので、ヨーロッパのお城には階段があるため、「穴をあけて階段を付けちゃおう。」と思いつけてみました。

階段に付いている人形は、付けるつもりは無かったのですが「時の鐘」の雨樋を買いに行った時、たまたま目に入り遊びで付けてみました。

完成するのに、乾燥時間は別にして、延べ四日位かかっています。「自分が楽しんで作ればいいかな。」と、思っています。



説明をする吉川さんと作品



釉薬を作ったり、道具を作ったりと手間を掛けて遊ぶ事が好みです。

鈴木 貴久

穴窯の焼き締めから始めましたが、志野や黄瀬戸に好みが移ってから原土や灰作りにも随分と凝りました。

今回は鉄・コバルト等の原料で作った金属釉作品を出展しましたが「この一品」は有りません。

努力はしているつもりですが、仕事の余暇でやれる事は知れていますね。元気なうちに隠居して、陶芸三昧をしてみたいと思っています。

鈴木貴久さんと作品



# 陶陶さん

第 93 号

あかほし



染織・漆・陶磁など  
素晴らしい工芸品が  
8室に展示される中  
でも、すぐに中野さん  
の作品とわかる迫力のある  
作品でした。



題「DARK ENERGY」

中野さんは「全陶展」にも出展しました

○「全陶展」神奈川県支部展  
〈会場〉神奈川県民ホール ギャラリー

ホームページでもお知らせいたしました  
が、会員の活動の様子を報告いたします

中野正好さん 3年連続の入選です  
2018年 第57回「日本現代工芸美術展」

〈会場〉東京都美術館(上野公園)  
〈会期〉平成30年4月18日～4月24日  
に展示が行われました

〈会期〉4月17日～4月22日  
こちらは、青色の  
グラデーシオンが  
美しい今までと違  
った作品でした。



題「佇む」

今年度の作品展で見られるといいですね。

## 山村隆さんの作品展です

会期・2018年5月4日～5月9日  
会場・江ノ島の「ギャラリーT」

今年は、梅花皮(カイラギ)の茶碗・粉引・  
油揚手黄瀬戸・御本手(萩)・織部・アメ釉など  
一部は友の会の作品展にも出品しましたが伝  
統的な釉の作品を主に作りしました。

なお、作品の一部は下記のブログに掲載し  
ました。

こちらもお目通しいただければ幸いです。

<https://blogs.yahoo.co.jp/longinsperson/38381558.html>

## 【編集後記】

・先月、静嘉堂文庫美術館にて以前から見て  
みたいと思っていた「曜変天目」(国宝)別の  
名を「稲葉天目」を見つけてきました。

漆黒の釉に大小の斑紋が集まり、その周り  
を藍と青、光の加減によっては様々な色に不  
思議と輝いておりました。

12～13世紀の南宋時代に作られたものだ  
そうですが、徳川將軍家の至宝となり代々受  
け継がれてきたとか。

現存する国宝の曜変天目茶碗は3碗あり、  
残りの2つは京都大徳寺、大阪藤田美術館に  
所蔵されています。

機会があれば見に行きたいと思っています。

(大日方)

・今回は、作品展の会場の決定を待ったため  
発行が遅くなりました。ご了承ください。

(鍋島)

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

## 横浜陶芸友の会だより 第 171 号

(平成 30 年 7 月 23 日発行)  
発行人 横浜陶芸友の会  
会長 高橋 光男

編集責任者 広報部長 吉良謙